

- ・情報ビジネス特別講義 4
- ・e ビジネス特論
- ・プロジェクト管理特論 2
- ・情報システム特論 1
- ・ソフトウェア工学特論

プロジェクトマネージャコース

- ・コミュニケーション技術特論 2
- ・標準化と知財戦略
- ・情報システム特論 2
- ・情報アーキテクチャ特論 2
- ・情報ビジネス特別講義 1
- ・プロジェクト管理特論 1
- ・プロジェクト管理特別講義
- ・プロジェクト管理特論 2
- ・プロジェクト管理特論 3
- ・情報システム特論 1
- ・情報ビジネス特別講義 2
- ・情報ビジネス特別講義 3
- ・オブジェクト指向開発特論
- ・ソフトウェア工学特論
- ・アジャイル開発手法特論

テクニカルスペシャリストコース

- ・システムプログラミング特論
- ・ネットワーク特論 2
- ・ネットワークシステム特別講義 2
- ・情報セキュリティ特論
- ・データベース特論
- ・ビッグデータ解析特論
- ・クラウドインフラ構築特論
- ・情報セキュリティ特別講義 1
- ・情報システム特論 1
- ・フレームワーク開発特論
- ・ソフトウェア工学特論
- ・情報セキュリティ特別講義 2
- ・セキュアプログラミング特論

サービスマネージャコース

- ・ネットワーク特論 2
- ・セキュアシステム管理運用特論
- ・IT 特論
- ・CIO 特論
- ・情報システム特論 2
- ・情報アーキテクチャ特論 2
- ・サービスサイエンス特論

- ・プロジェクト管理特論 1
- ・プロジェクト管理特論 2
- ・情報セキュリティ特別講義 1
- ・情報セキュリティ特別講義 3
- ・情報システム特論 1
- ・情報ビジネス特別講義 3
- ・クラウドサーバ構築特論

グローバルスペシャリストコース

- ・An algorithmic approach to functional programming
- ・データインテリジェンス特論
- ・情報インタフェースデザイン特論
- ・English technical writing
- ・IT 特論
- ・標準化と知財戦略
- ・情報アーキテクチャ特論 3
- ・情報ビジネス特別講義 1
- ・情報ビジネス特別講義 4
- ・e ビジネス特論
- ・プロジェクト管理特論 1
- ・プロジェクト管理特論 2
- ・情報ビジネス特別講義 2
- ・情報ビジネス特別講義 3
- ・アジャイル開発手法特論
- ・国際開発特論
- ・国際経営特論

事業アーキテクトコース

- ・経営戦略特論
- ・スタートアップ戦略特論
- ・マーケティング特論
- ・リーダーシップ特別講義
- ・ITソリューション特論
- ・事業アーキテクチャ特論
- ・事業アーキテクチャ研究
- ・事業アーキテクチャ設計

(ウ) 配属 PBL

人材像のコースごとの配属 PBL を次の表に示します。10 月入学生で、翌年の PBL 履修を希望する学生以外は、PBL の履修条件に (イ) の人材像のコースの推奨科目を 14 単位以上修得することが設定されています。また、推奨科目のうち 6 単位以上は成績評価 4 以上が望まれます。

ストラテジスト	システム アーキテクト	プロジェクト マネージャ	テクニカル スペシャリスト	サービス マネージャ	グローバル スペシャリスト	事業 アーキテクト
戸沢PBL 成田PBL	小山PBL 松尾PBL 飛田PBL	酒森PBL 中鉢PBL	小山PBL 成田PBL 松尾PBL 中鉢PBL 飛田PBL	戸沢PBL 酒森PBL	前田PBL	酒森PBL 小山PBL 戸沢PBL 松尾PBL

別表1: 知識体系 (5段階)

1.	2.	3. 大分類	4. 中分類	5. 小分類
A: 情報アーキテクトに必要な知識・スキル	A1: IT関連の基礎から応用に至る知識・スキル	K-01 (基礎理論)	K-01-01 《基礎理論》	K-01-01-01 (離散数学)
				K-01-01-02 (応用数学)
				K-01-01-03 (情報に関する理論)
				K-01-01-04 (通信に関する理論)
				K-01-01-05 (計測・制御に関する理論)
		K-02 (コンピュータ・システム)	K-01-02 《アルゴリズムとプログラミング》	K-01-02-01 (データ構造)
				K-01-02-02 (アルゴリズム)
				K-01-02-03 (プログラミング)
				K-01-02-04 (プログラム言語)
				K-01-02-05 (その他の言語)
		K-02 (コンピュータ構成要素)	K-02-03 《コンピュータ構成要素》	K-02-03-01 (プロセッサ)
				K-02-03-02 (メモリ)
				K-02-03-03 (バス)
				K-02-03-04 (入出力デバイス)
				K-02-03-05 (入出力装置)
		K-03 (技術要素)	K-02-04 《システム構成要素》	K-02-04-01 (システムの構成)
				K-02-04-02 (システムの評価指標)
				K-02-05-01 (オペレーティングシステム)
				K-02-05-02 (ミドルウェア)
				K-02-05-03 (ファイルシステム)
K-03 (技術要素)	K-02-05 《ソフトウェア》	K-02-05-04 (開発ツール)		
		K-02-05-05 (オープンソースソフトウェア)		
		K-02-06 《ハードウェア》	K-02-06-01 (ハードウェア)	
			K-03-07 《ヒューマンインタフェース》	
		K-03-07 《ヒューマンインタフェース》	K-03-07-01 (ヒューマンインタフェース技術)	
			K-03-07-02 (インタフェース設計)	
		K-03-08 《マルチメディア》	K-03-08-01 (マルチメディア技術)	
			K-03-08-02 (マルチメディア応用)	
		K-03-09 《データベース》	K-03-09-01 (データベース方式)	K-03-09-02 (データベース設計)
				K-03-09-03 (データ操作)
				K-03-09-04 (トランザクション処理)
K-03-09-05 (データベース応用)				
K-03-10 《ネットワーク》	K-03-10-01 (ネットワーク方式)	K-03-10-02 (データ通信と制御)		
		K-03-10-03 (通信プロトコル)		
		K-03-10-04 (ネットワーク管理)		
		K-03-10-05 (ネットワーク応用)		
		K-03-11 《セキュリティ》	K-03-11-01 (情報セキュリティ)	K-03-11-02 (情報セキュリティ管理)
K-03-11-03 (セキュリティ技術評価)				
K-03-11-04 (情報セキュリティ対策)				

A2: 対象分野の業務に関する知識	K-08 (経営戦略)	K-08-19 《経営戦略マネジメント》	K-08-19-01 (経営戦略手法)		
			K-08-19-02 (マーケティング)		
			K-08-19-03 (ビジネス戦略と目標・評価)		
			K-08-19-04 (経営管理システム)		
			K-08-20 《技術戦略マネジメント》		
		K-08-21 《ビジネスインダストリ》	K-08-20-01 (技術開発戦略の立案)		
			K-08-20-02 (技術開発計画)		
			K-08-21-01 (ビジネスシステム)		
			K-08-21-02 (エンジニアリングシステム)		
			K-08-21-03 (e-ビジネス)		
K-10 (ビジネス知識)	K-10-24 《ビジネス知識》	K-08-21-04 (民生機器)			
		K-08-21-05 (産業機器)			
		K-10-24-01 (顧客のビジネス知識)			
		A3: マネジメントの知識・スキル	K-05 (プロジェクトマネジメント)	K-05-14 《プロジェクトマネジメント》	K-03-11-05 (セキュリティ実装技術)
					K-05-14-01 (プロジェクトマネジメント)
K-05-14-02 (プロジェクト統合マネジメント)					
K-05-14-03 (プロジェクトステークホルダマネジメント)					
K-05-14-04 (プロジェクトスコープマネジメント)					
K-05-14-05 (プロジェクト資源マネジメント)					
K-05-14-06 (プロジェクトタイムマネジメント)					
K-05-14-07 (プロジェクトコストマネジメント)					
K-05-14-08 (プロジェクトリスクマネジメント)					
K-05-14-09 (プロジェクト品質マネジメント)					
K-05-14-10 (プロジェクト調達マネジメント)					
K-06 (サービスマネジメント)	K-06-15 《サービスマネジメント》	K-05-14-11 (プロジェクトコミュニケーションマネジメント)			
		K-06-15-01 (サービスマネジメント)			
		K-06-15-02 (サービスの設計・移行)			
		K-06-15-03 (サービスマネジメントプロセス)			
		K-06-15-04 (サービスの運用)			
K-06-16 《システム監査》	K-06-15-05 (ファシリティマネジメント)				
	K-06-16-01 (システム監査)				
K-09 (企業と法務)	K-09-22 《企業活動》	K-06-16-02 (内部統制)			
		K-09-22-01 (経営・組織論)			
		K-09-22-02 (OR・IE)			
		K-09-22-03 (会計・財務)			
		K-09-23-01 (知的財産権)			
K-09-23 《法務》	K-09-23-02 (セキュリティ関連法規)				
	K-09-23-03 (労働関連・取引関連法規)				
	K-09-23-04 (その他の法律・ガイドライン・技術者倫理)				
	K-09-23-05 (標準化関連)				
	A4: 情報システムの間	K-04 (開発技術)	K-04-12 《システム開発技術》	K-04-12-01 (システム要件定義)	
K-04-12-02 (システム方式設計)					
K-04-12-03 (ソフトウェア要件定義)					
K-04-12-04 (ソフトウェア方式設計・ソフトウェア詳細設計)					
K-04-12-05 (ソフトウェア構築)					

発に関する知識・スキル		K-04-12-06 (ソフトウェア結合・ソフトウェア適格性確認テスト) K-04-12-07 (システム結合・システム適格性確認テスト) K-04-12-08 (導入) K-04-12-09 (受入れ支援) K-04-12-10 (保守・廃棄)
	K-04-13《ソフトウェア開発管理技術》	K-04-13-01 (開発プロセス・手法) K-04-13-02 (知的財産活用管理) K-04-13-03 (開発現場管理) K-04-13-04 (構成管理・変更管理)
	K-07《システム戦略》	K-07-17-01 (情報システム戦略) K-07-17-02 (業務プロセス) K-07-17-03 (ソリューションビジネス) K-07-17-04 (システム活用促進・評価)
	K-07-18《システム企画》	K-07-18-01 (システム化計画) K-07-18-02 (要件定義) K-07-18-03 (調達計画・実施)
B: 情報アーキテクトに必要とされる業務遂行能力 (コンピテンシ)	B1: コミュニケーション B1-1 (システム提案・ネゴシエーション・説得) B1-2 (ドキュメンテーション) B2: 継続的学習・研究 B2-1 (革新的概念・発想) B2-2 (ニーズ・社会的・マーケット的視点) B2-3 (問題解決) B3: チーム活動 B3-1 (リーダーシップ・マネジメント) B3-2 (ファシリテーション・調整)	PBLの活動・成果の質・量による評価及びRubric評価(事前に設定した基準に対する達成度による評価)を行う。表2を参照されたし。

別表2：人材像ごとに学ぶ知識・スキル

	A1 IT 関連 の基 礎か ら応 用	A2 対象 分野 の難 易度	A3 マネ ジメ ント	A4 情報 シス テム 開発	グロー バル リスベ シヤリ スト スタ テジ スト	システ ムアー キテク ト	プロジェ クトマ ネジャ ー	テクニカ リスベ シヤリ スト	サービ スマネ ジャ	事業ア ーキテ クト
K-01-01《基礎理論》	○				○	○	○	○	○	○
K-01-02《アルゴリズムとプログラミング》	○				○	○	○	○	○	○
K-02-03《コンピュータ構成要素》	○				○	○	○	○	○	○
K-02-04《システム構成要素》	○				○	○	○	○	○	○
K-02-05《ソフトウェア》	○				○	○	○	○	○	○
K-02-06《ハードウェア》	○				○	○	○	○	○	○
K-03-07《ヒューマンインタフェース》	○				○	○	○	○	○	○
K-03-08《マルチメディア》	○				○	○	○	○	○	○
K-03-09《データベース》	○							○		
K-03-10《ネットワーク》	○							○		
K-03-11《セキュリティ》	○							○		
K-04-12《システム開発技術》				○		○		○		
K-04-13《ソフトウェア開発管理技術》				○		○	○	○		
K-05-14《プロジェクトマネジメント》			○				○		○	
K-06-15《サービスマネジメント》			○				○		○	
K-06-16《システム監査》			○						○	
K-07-17《システム戦略》				○	○	○				○
K-07-18《システム企画》				○	○	○				○
K-08-19《経営戦略マネジメント》		○			○	○				○
K-08-20《技術戦略マネジメント》		○			○					○
K-08-21《ビジネスインダストリ》		○			○					○
K-09-22《企業活動》			○				○			○
K-09-23《法務》			○				○			○
K-10-24《ビジネス知識》		○			○	○	○	○	○	○

②創造技術専攻

創造技術専攻の1年次のカリキュラムは、高度なもののづくり専門人材に必要とされる知識・スキル(A)を修得するため、関連分野の基礎知識を修得する創造技術基礎科目群、産業材料科目群、産業技術研究科共通科目群、共通必修科目群、ビジネスアプリケーション科目群、**事業アーキテクト**科目群と、ものづくりの専門知識として感性設計力を獲得するインダストリアル・デザイン科目群及び機能設計力を獲得するプロダクト・イノベーション科目群、デジタル技術科目群の専門科目群から構成されています。

2年次のカリキュラムは、1年次に修得した知識やスキルを活用してプロジェクトに取り組み、ものづくりに必要なコンピテンシー (B) を獲得するPBL型科目のイノベーションデザイン特別演習又は**事業アーキテクト特別演習 b (必修)**が中心となります。5名程度で実施するPBLは、主担当教員1名、副担当教員2名と外部評価者1名の指導の下、一年をかけて行われます。

また、これらのカリキュラムは、前項に記載した職業上のステータスに対応するキャリアプランとして設定した6つのコースに対応するよう設計されています。

(ア) 科目群

「ものづくりスペシャリスト」に必要とされる(A)知識・スキルは、感性デザインと機能デザインに関する高度な専門知識と、ものづくりマネジメントや産業材料などに関する横断的基礎知識・スキル、さらに研究科全般に関わる基礎知識・スキルとなります。これらを修得するために、以下の9種類の科目群が用意されています。

知識・スキル分野	科目群
感性デザイン分野	インダストリアル・デザイン科目群
機能デザイン分野	プロダクト・イノベーション科目群
	デジタル技術科目群
感性デザインと機能デザインの両分野を融合する基礎的共通分野	創造技術基礎科目群 産業材料科目群 事業アーキテクト科目群
産業技術に関わる基礎的共通分野	産業技術研究科共通科目群 共通必修科目群 ビジネスアプリケーション科目群

(イ) 人材像とモデルコース

本専攻では、ものづくりスペシャリストとして学生が将来活躍できる職業上のステータス(人材像)を想定し、そのためのキャリアプランとして以下の6種類のモデルコースを設定しています。また、それぞれのキャリアプランの指導を担当する教員(担任)を配置しています。

職業上のステータス	モデルコース	担当教員
デザイナーに代表される感性設計力を有するものづくりスペシャリスト	インダストリアルデザインコース	國澤、小山
開発設計技術者に代表される機能設計力を有するものづくりスペシャリスト	開発設計コース システム統合・制御コース	菅野、越水 川田、橋本、村越
感性と機能を統合して開発をマネジメントできるものづくりスペシャリスト	ものづくりマネジメントコース 国際コース	吉田 前田

感性と機能を統合して事業をプロデュースできるものづくりスペシャリスト	事業アーキテクトコース	川田、國澤、越水、吉田
------------------------------------	--------------------	-------------

(ウ) 履修計画作りとモデルコース

インダストリアルデザインコース

プロダクトからシステムまで、デザイン計画に必要な高度な知識とスキルを修得するためのプログラム。将来キャリアとしては、高度なもののづくり知識やスキルを有するデザイナーやデザインの理解・活用を希求する技術者、マーケッター等を想定している。

ものづくりマネジメントコース

経営視点の論理的理解力と、ものづくり視点の感性的理解力を共に修得するためのプログラム。将来キャリアとしては、経営に有効な高度なマネジメント力を有するエンジニア、ものづくり技術に精通した経営者等を想定している。

開発設計コース

新製品の企画提案から設計、開発までに必要とされる高度な知識とスキルを修得するためのプログラム。将来キャリアとしては、高度な開発設計プロセス、材料、品質・信頼性の知識とスキルが要求されるエンジニアや経営者などを想定している。

システム統合・制御コース

システム開発の企画提案から設計、開発までに必要となる高度な知識とスキルを修得するためのプログラム。将来キャリアとしては、高度なシステム開発の知識とスキルが要求されるシステムアーキテクトやエンジニアなどを想定している。

国際コース

アジアを中心とした国際社会で、具体的な就職先ターゲットを明確にした上で、そのために必要な高度な専門的知識とスキルを修得するためのプログラム。将来キャリアとしては、開発援助関連の国際機関・NPO・研究所等の職員、アジア等における起業家・実務家を想定している。

事業アーキテクトコース

情報アーキテクト専攻との両専攻横断コース。詳細はp.10「1はじめに(2)専門職人材」の「※事業アーキテクト」を参照。

(エ) 推奨科目

各コースごとに受講推奨科目があります。履修科目を決める際に目安としてください。これらの科目は必修ではありませんので、学生の判断で他科目に置き換えて受講してもかまいません。ただし、**事業アーキテクトコース**を希望する学生は、PBL型科目**(事業アーキテクト特別演習 b1・2)**の履修に際して、**事業アーキテクト科目群の科目から10単位を修得する必要があります。**

なお、次の科目は必修科目となりますので、コースに関係無く履修が必要となります。

- ・技術倫理または情報技術者倫理のどちらか
- ・(事業アーキテクトコース以外のコースの学生)
イノベーションデザイン特別演習 1・2 (PBL 型科目)
- ・(事業アーキテクトコースの学生)
事業アーキテクト特別演習 b1・b2 (PBL 型科目)

インダストリアルデザインコース

- ・ものづくりアーキテクト概論
- ・グローバルコミュニケーション特論
- ・技術経営特論
- ・イノベーション戦略特論
- ・人間中心デザイン特論
- ・デザインマネジメント特論
- ・プロダクトデザイン特論
- ・価値デザイン特論
- ・デザインシステム計画特論
- ・コミュニケーションデザイン特論
- ・デジタルデザイン実習
- ・デザイン表現実習
- ・造形デザイン特別演習
- ・プロダクトデザイン特別演習
- ・トランスポートデザイン特別演習
- ・設計工学特論
- ・プロトタイピング工学特論
- ・創造設計特論
- ・チーム設計・試作特別演習

ものづくりマネジメントコース

- ・ものづくりアーキテクト概論
- ・技術経営特論
- ・技術開発組織特論
- ・デザインマネジメント特論 * *から3科目選択。
- ・人間中心デザイン特論
- ・イノベーション戦略特論
- ・品質工学特論
- ・信頼性工学特論 *
- ・サービス工学特論 *
- ・システムインテグレーション特論 *
- ・創造設計特論
- ・プロダクトデザイン特論
- ・価値デザイン特論
- ・デザインシステム計画特論 *
- ・コミュニケーションデザイン特論 *
- ・グローバルコミュニケーション特論 *
- ・テクノロジーマネジメント特別演習

- ・デザイン表現実習

開発設計コース

- ・材料基礎特論
- ・先端材料特論
- ・設計工学特論
- ・プロトタイピング工学特論
- ・サービス工学特論
- ・シミュレーション特論
- ・創造設計特論
- ・品質工学特論
- ・信頼性工学特論
- ・デジタル製品開発特論
- ・動的システム工学特論 * *から3科目選択。
- ・システムインテグレーション特論 *
- ・インテリジェントシステム特論 *
- ・組み込みシステム特論 *
- ・チーム設計・試作特別演習

システム統合・制御コース

- ・ものづくりアーキテクト概論
- ・動的システム工学特論
- ・シミュレーション特論
- ・設計工学特論
- ・プロトタイピング工学特論
- ・システムインテグレーション特論
- ・サービス工学特論
- ・品質工学特論
- ・信頼性工学特論
- ・インテリジェントシステム特論
- ・組み込みシステム特論
- ・システムモデリング特論
- ・デジタル製品開発特論
- ・ET (Embedd Technology) 特別演習 * *から1科目選択。
- ・チーム設計・試作特別演習 *

国際コース

- ・国際経営特論
- ・国際開発特論
- ・ものづくりアーキテクト概論
- ・グローバルコミュニケーション特論
- ・技術経営特論
- ・イノベーション戦略特論
- ・人間中心デザイン特論
- ・デザインマネジメント特論

- ・デザインシステム計画特論
- ・コミュニケーションデザイン特論
- ・設計工学特論
- ・サービス工学特論
- ・チーム設計・試作特別演習

事業アーキテクトコース

- ・ものづくりアーキテクト概論
 - ・グローバルコミュニケーション特論
 - ・技術経営特論
 - ・イノベーション戦略特論
 - ・人間中心デザイン特論
 - ・デザインマネジメント特論
 - ・デザインシステム計画特論
 - ・プロトタイプ工学特論
 - ・創造設計特論
 - ・国際経営特論
 - ・国際開発特論
 - ・経営戦略特論
 - ・スタートアップ戦略特論
 - ・マーケティング特論
 - ・リーダーシップ特別講義
 - ・ITソリューション特論
 - ・事業アーキテクト研究
 - ・事業アーキテクト研究
 - ・事業アーキテクト設計
- * *から5科目以上選択。
* ただし、修了要件として認められるのは
* 10単位まで。

2 修了に必要な単位数と要件

本学では、次に示す修了要件を満たすことにより、学位を得ることができます。

(1) 修了要件【情報アーキテクト専攻】

- ①在学年数 2年以上（長期履修生については、4月入学者は3年以上、10月入学者は2年6ヶ月以上を推奨する。）
- ②修得単位数 40単位以上（内訳は下表参照）

科目群	備考	種別		
		必修	選択必修	選択
共通必修科目群	2科目から選択	-	2単位	-
情報システム学特別演習又は 事業アーキテクト特別演習a	PBL型科目 所属コースにより指定される方を履修	12単位	-	-
IT系科目群				
エンタープライズ系科目群	（※1）インターンシップは除く （※2）合計10単位まで 修了要件に認める	-	-	26単位 以上
システム開発系科目群				
マネジメント系科目群				
産業技術研究科共通科目群（※1） 事業アーキテクト科目群（※2）				
		40単位以上		

創造技術専攻の科目を履修して修得した単位及びビジネスアプリケーション科目群の単位は、情報アーキテクト専攻の修了要件に含みません。

(2) 修了要件【創造技術専攻】

- ①在学年数 2年以上（長期履修生については、4月入学者は3年以上、10月入学者は2年6ヶ月以上を推奨する。）
- ②修得単位数 40単位以上（内訳は下表参照）

科目群	備考	種別		
		必修	選択必修	選択
共通必修科目群	2科目から選択	-	2単位	-
イノベーションデザイン特別演習又は 事業アーキテクト特別演習b	PBL型科目 所属コースにより指定される方を履修	12単位	-	-
創造技術基礎科目群				
産業材料科目群	（※1）インターンシップは除く （※2）合計10単位まで 修了要件に認める	-	-	26単位 以上
プロダクト・イノベーション科目群				
インダストリアル・デザイン科目群				
デジタル技術科目群				
産業技術研究科共通科目群（※1） 事業アーキテクト科目群（※2）				
		40単位以上		

情報アーキテクト専攻の科目を履修して修得した単位及びビジネスアプリケーション科目群の単位は創造技術専攻の修了要件に含みません。

3 PBL 型科目のカリキュラムと履修条件

(1) PBL 型科目のカリキュラム <産業技術大学院大学履修規則第 10 条第 2 項関連>

PBL 型科目とは、以下の科目を指します。コースと科目名の対応関係は下表のとおりです。

専攻	コース	PBL 科目名	開講時期
情報アーキテクチャ専攻	・ストラテジストコース ・システムアーキテクトコース ・プロジェクトマネージャコース	情報システム学特別演習1	第1・2 クォータ
	・テクニカルスペシャリストコース ・サービスマネージャコース ・グローバルスペシャリストコース	情報システム学特別演習2	第3・4 クォータ
	・事業アーキテクトコース	事業アーキテクチャ特別演習a1	第1・2 クォータ
		事業アーキテクチャ特別演習a2	第3・4 クォータ
	創造技術専攻	・インダストリアルデザインコース ・ものづくりマネジメントコース ・開発設計コース ・システム統合・制御コース ・国際コース	イノベーションデザイン特別演習1
		イノベーションデザイン特別演習2	第3・4 クォータ
・事業アーキテクトコース		事業アーキテクチャ特別演習b1	第1・2 クォータ
		事業アーキテクチャ特別演習b2	第3・4 クォータ

(2) 情報アーキテクチャ専攻の PBL 型科目の履修条件

PBL 型科目を履修することができる者は、以下の履修条件を満たした者とします。

- ①10 月入学生で、翌年の PBL 履修を希望する学生
 - (ア) 修了要件 40 単位として認められる単位を 12 単位以上修得していること
 - (イ) ②の学生の履修条件を参考に適切に推奨科目を履修することが期待される
- ② 4 月入学生及び 10 月入学の長期履修生 (①以外の学生)
 - (ア) 修了要件 40 単位として認められる単位を 22 単位以上修得していること
 - (イ) (ア) の 22 単位のうち、基礎科目 (シラバス p.3「クォータごとの配当科目一覧表」で☆が付いている科目) 以外が 16 単位以上あること (「グローバルスペシャリストコース」以外のコースのみ)
 - (ウ) (ア) の 22 単位のうち、配属希望の配属される PBL のコースで設定されている推奨科目を 14 単位以上(ただし、事業アーキテクトコースは 10 単位以上) 修得すること(コースと PBL と推奨科目の関係は p.10「1 (4) カリキュラムの特色等」参照)
 - (エ) (ウ) のコースの推奨科目のうち 6 単位以上は成績評価 4 以上が望まれる

例えば、中鉢 PBL を希望する場合は、「プロジェクトマネージャ」コースか「テクニ

カルスペシャリスト」の 2 つのコース選択肢があります。したがって、②の学生が中鉢 PBL を履修するには、どちらかのコースの推奨科目を 14 単位以上、かつ基礎科目以外の単位 16 単位以上を修得し、そのほかの単位と合わせて 22 単位以上 (ただし修了要件 40 単位として認められる単位のみを計上) とする必要があります。

なお、情報システム学特別演習 2 及び事業アーキテクチャ特別演習 a2 の履修条件は、次のとおりです。

- ・情報システム学特別演習 2……情報システム学特別演習 1 の単位を修得していること
- ・事業アーキテクチャ特別演習 a2……事業アーキテクチャ特別演習 a1 の単位を修得していること

(3) 創造技術専攻の PBL 型科目の履修条件

PBL 型科目を履修することができる者は、以下の履修条件を満たした者とします。

- ①10 月入学生で、翌年の PBL 履修を希望する学生
 - 修了要件 40 単位として認められる単位を 12 単位以上修得していること
- ②4 月入学生及び 10 月入学の長期履修生 (①以外の学生)
 - (ア) 修了要件 40 単位として認められる単位を 22 単位以上修得していること
 - (イ) (事業アーキテクトコースの学生のみ) (ア) の 22 単位のうち、事業アーキテクチャ科目群から 10 単位を修得していること

なお、イノベーションデザイン特別演習 2 及び事業アーキテクチャ特別演習 b2 の履修条件は、次のとおりです。

- ・イノベーションデザイン特別演習 2……イノベーションデザイン特別演習 1 の単位を修得していること
- ・事業アーキテクチャ特別演習 b2……事業アーキテクチャ特別演習 b1 の単位を修得していること

4 履修について

授業を履修するためには、定められた期間までに以下に示す「履修申請」と、「履修計画の作成」の双方を行う必要があります。

(1) 履修申請の時期・方法

①履修申請期間

クォータごとに指定された期間内に、履修しようとする授業科目を申請してください。履修申請期間は p.3~5 の学年暦及び授業カレンダーに記載しています。

<クォータごとの履修申請対象科目>

- ・第 1 クォータ……第 1、2 クォータの科目の履修申請
- ・第 2 クォータ……第 2 クォータの科目の履修申請
(※第 1 クォータで申請した第 2 クォータの科目について追加・削除が可能)
- ・第 3 クォータ……第 3、4 クォータの科目の履修申請
- ・第 4 クォータ……第 4 クォータの科目の履修申請
(※第 3 クォータで申請した第 4 クォータの科目について追加・

削除が可能)

クォータごとに指定された履修申請期間以外での申請は受け付けないので注意してください。

②履修申請方法

履修申請はWebにより行います。詳細は入学時に配布する「履修申請／成績確認マニュアル」又は履修申請期間前に出すポータルサイトの掲示を確認してください。
履修申請の完了後は、「履修登録確認表」を出力の上、手元に保存してください。

③注意事項

履修申請期間が終了すると履修する科目は確定します。確定後は履修科目の追加・削除をすることができないので十分注意してください。
履修申請をしない場合、授業への出席及び試験等の受験はできず、単位も修得できないので十分注意してください。

(2) 履修計画作成の時期・方法

①履修計画作成の目的

各自が目指す専門職人材としての知識、スキル、コンピテンシー等を修了までに計画的に修得できるように、入学時に修了までの履修計画を作成してください。履修計画は、成績評価等を考慮して学修目標を変更するなど、適宜変更可能です。

②履修計画の作成期間

入学時に行う専攻毎のガイダンスや、ポータルサイトの掲示板でお知らせします。

③履修計画の作成方法

LMS（ポータルサイトトップページ「授業支援（資料・レポート等）」からリンク）の中に設置されている履修計画のページで作成を行ってください。詳細は、入学時に行う専攻毎のガイダンス等で確認してください。

④履修計画の作成手順

(ア) LMS（ポータルサイトトップページ「授業支援（資料・レポート等）」からリンク）の中の「履修計画」のページで、各自が目指す人材像の観点から履修すべき科目を選択し、修了要件を満たすよう、作成する。

(イ) (ア)をLMSで提出する。

(ウ) 提出した計画について、担任教員からアドバイスを受ける。

アドバイスは、学生が目指す専門職人材を考慮して、知識、スキル、コンピテンシー等を計画的に修得できるか、学修時間が確保できるか、といった点等について行われる。

⑤履修申請と履修計画の関係

履修申請は、履修計画で立てた計画にしたがって行ってください。

(3) 履修科目の登録の上限

前期（第1クォータと第2クォータ）、後期（第3クォータと第4クォータ）それぞれ

の期間で履修申請できる単位数の上限は22単位です。この単位数を超えて履修申請できないので、計画を持って履修計画を立てるようにしてください。

(4) 重複履修の禁止

同一クォータの同一曜日、同一時限に2科目以上の授業科目を履修申請することは、重複履修とされ、履修が認められません。

(5) 同一科目の再履修

過去に単位を修得した科目について、再度同一科目を履修の希望をする場合は、所定の期間に申請書を提出することで、再履修が可能です。

再履修を行った場合、申請の取り下げはできません。また、成績は再履修後の評価で上書きされ、再履修前の評価に戻すことはできません。ただし、再履修後の成績評価が「不可」の場合は、再履修前の成績評価のままとします。その他履修に関するルールは、再履修以外の科目と同様です。

再履修の対象は、以下に挙げる科目以外で、当該年度に開講される原則全科目となります。

①カリキュラム変更等で単位数の変更があった科目

②情報システム学特別演習 1・2、イノベーションデザイン特別演習 1・2、事業アーキテクチャ特別演習 a1・a2、事業アーキテクチャ特別演習 b1・b2及びインターンシップ

③その他、指定する授業科目

(6) AITT 単位バンク登録生（科目等履修生）として修得した単位

入学前に AITT 単位バンク登録生（科目等履修生）として修得した単位は、所定の手続きと審査を経て、入学後に修得した単位として扱われます。

(7) 他大学院の授業科目の単位

①他大学院の授業科目の履修と認定

学長が認めた場合は、他大学院の授業科目を履修することができ、修得した単位を、修了に必要な単位として、10 単位を上限として認めることができます。

②入学前の既修得単位等の認定

学長が認めた場合は、学生が本学に入学する前に他大学院において修得した単位を、修了に必要な単位として、10 単位を上限として認めることができます。

(8) インターンシップの単位

事前登録をすることで開始されるインターンシップについて、必要な要件を満たす場合には、所定の手続きと審査を経て単位として認めます。この単位は修了要件に含まれません。

(9) 長期履修制度

仕事の都合や育児、長期介護等の事情により、標準修業年限（2年）で修了することが困難な方を対象として、長期履修制度を実施しています。長期履修期間は、4月入学生は3年、10月入学生は2年6ヶ月の修業年限を推奨しています。許可された期間で支払う授業料は、2年分の授業料と同等です。